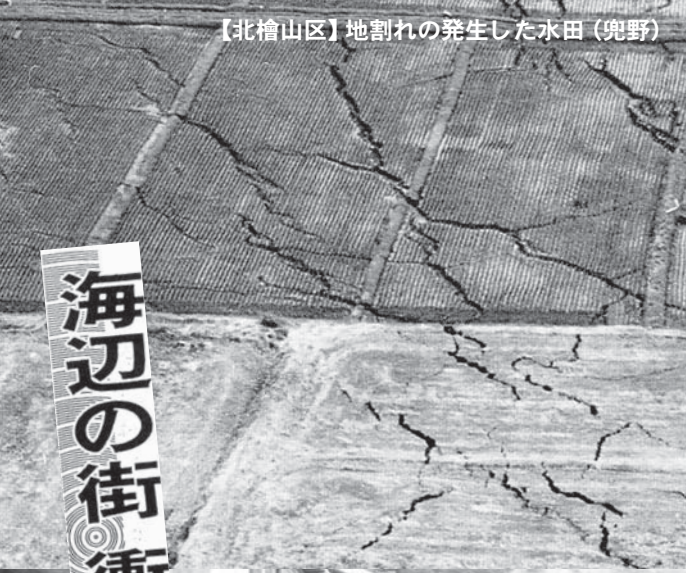


【北檜山区】地割れの発生した水田（兜野）

【瀬棚区】津波の被害にあった本町1区周辺



【大成区】津波の被害に遭った太田地区



【北檜山区】崩壊した東丹羽の道道丹羽・今金線

平成5年7月12日、22時17分、北海道南西沖地震発生。

一瞬のうちに尊い201名の生命と1300億円もの財産を奪い去った…。

あれから20年…。長い歳月が過ぎ、そのことを知らない世代もいる。

今では、東日本大震災の記憶が新しいが、20年前、私たちも被災した。

そのことを忘れてはいけない。その経験を活かさなければならない。

あれから20年。

北海道南西沖地震の教訓を忘れず災害に強いまちへ

【大成区】津波の被害にあった平浜地区



沿岸無残…ツメ跡深く

【北檜山区】津波の被害に遭った太櫓地区・弁天岬駐車場前



【瀬棚区】津波で家屋が倒壊した三本杉地区

襲う土砂、火炎、波

せたな町の被害

- ◎死者 … 20人
(北檜山4・瀬棚6・大成10)
- ◎行方不明 … 1人(北檜山)
- ◎重症 … 18人
- ◎軽傷 … 114人
- ◎住宅被害 … 730棟 約24億円
- ◎総被害額 … 約220億円



【瀬棚区】地震で大きな落石があった窓岩付近の国道229号・手前には津波で打ち上げられた磯船も



【大成区】津波に流され港に乗り上げた漁船(太田漁港)



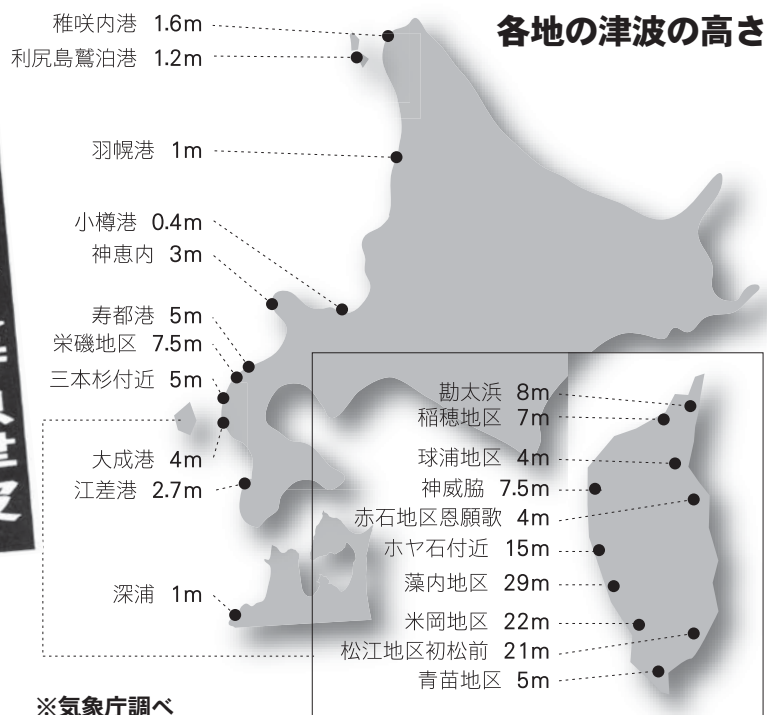
【瀬棚区】瀬棚中学校に避難した方々
※せたな町全体では地震後約1,500人が避難



【瀬棚区】津波の被害に遭った本町1区・2区地域



【大成区】津波の被害に遭った宮野地区



【北檜山区】倒壊した家屋が道路を塞ぐ（太櫓）

時速約500キロ、常識を超える津波の速さに警報も間に合わず…

地震発生から5分後、22時に札幌管区気象台は北海道の日本海沿岸に大津波警報を発表。しかし、奥尻島では早い場所ですら3分（警報の2分前）、せたと町でも6分（警報から1分）と、10分以内という常識を超える速さの津波が来襲し、津波による被害が非常に大きかった。

津波は繰り返し長時間継続し、13日の7時によやく警報が解除された。

津波の到達した高さは奥尻町内でも29mにも達し、瀬棚、北檜山、大成の海岸でも4～8mに達した。

人的被害のほとんどが、地震により誘発された津波の被害であった。

※東日本大震災の直後は、携帯電話事業者によって、最大で平常時の50倍以上の通話が一時的に集中しました。電話がつながりにくいな
かで、家族の安否や避難先をどう伝えるか（張り紙をする場所や伝言ダイヤルなど）、あらかじめ家族で話し合っておきましょう。

自分自身の身を守る

避難場所を把握しておくことが 自分自身を守る第一歩

危険が迫ったら何よりも
避難を優先する

日頃の防災意識が
被害を最小限に

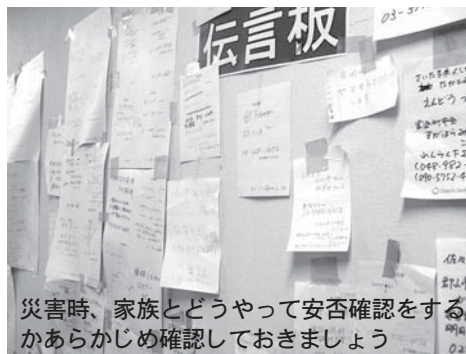
危険が迫ったら、何よりも
避難することが大切です。自
宅、職場、外出先などどこで
災害に遭遇するか予測できま
せん。また、家族全員が自宅
にいるときに、災害が発生す
るとも限りません。災害に遭
遇した場合に備えて自分の地
域での避難場所を確認し、家
族とどうやって連絡を取り合
うのか確認しておきましょ
う。

一人暮らしの方について
も、身近な親類などへあらか
じめ災害時の避難場所を伝え
ておくことで、安否確認をス
ムーズにし、心配を減らすこ
とにつながります。災害を
想定し、こうした準備をして
おくことも大切です。

災害時は救援物資が届くま
で約3日かかるとも言われて
います。道路や交通事情に
よってはどうかかわりま
せん。非常事態に備え、水や
食料は最低限、家族が3日間
自足できる量を用意しておき
ましょう。

水は1日当たり、1人で3
リットルが必要です。町でも備
蓄物品を用意していますが、
一人ひとりが避難生活を想定
した準備をし、いざという
ときに何を持って逃げるのか把
握しておくことが大切です。
常備薬が必要な方など、特別
な持ち出し品がある方は特
に注意が必要です。
そうは言っても「そのうち
取り組もう…」と思って防災

対策は後回しになりがちで
す。しかし、国や町がどんな
に防災対策を行っていても
災害時に真っ先に判断し行動
するのは自分です。
まず「自分の身は自分で守
る」といった、一人ひとりの
防災意識を高めることが被害
を最小限に食い止めることに
つながります。



災害時、家族とどうやって安否確認をする
かあらかじめ確認しておきましょう

公助
1.70%

その他
0.80%

66.80%

自助



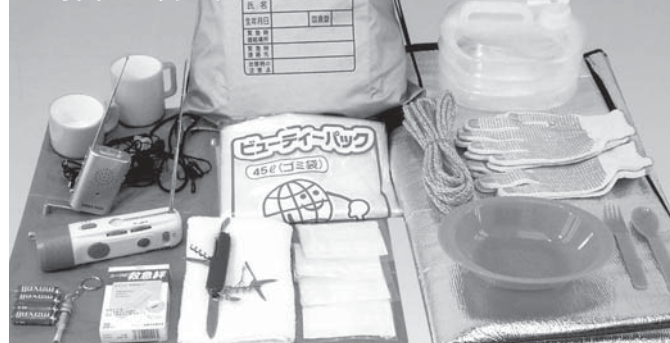
ちをつくる

自助と共助の力が多くの運命を左右しました。
「自助」と「共助」の力をつけることが大切です

避難生活に備える

非常持出袋を準備

※写真は一例です



非常持出品 >>> 非常用持出袋に入れて準備

- ①貴重品（印鑑、預金通帳、保険証など）
- ②非常食品（缶詰、乾パン、ビスケットなど）
- ③救急・衛生用品（消毒薬、傷薬、包帯など）
- ④衣類（下着類、ジャンパー、タオルなど）
- ⑤携帯ラジオ
- ⑥照明器具（懐中電灯、ろうそく、ライターなど）
- ⑦道具（缶切り、ナイフ、割りばしなど）



「避難」||「所在を伝える」||「家族の安心」

そんなときのために、地域や家族で避難場所や連絡方法を決めておきましょう。それにより、非常時に、安否確認もスムーズになり、みんなが安心して次のステップへと踏み出すことができます。

災害時に周りの人を助け
ることができるのはあなた
であり、あなたを助けること
ができるのは身近な方なの
です。そのためには、隣近所
での声掛けや交流を増やし、
地域内のつながりを持つこと
とが大切です。地域の力を
高め、災害に強いまちを目指
しましょう。

救うも救われるも身近な人

共助
30.70%

上のグラフは、
1995年阪神淡路大震災で
生き埋めや閉じ込められた人が
どうやって助かったかを
聞いたものです

- 本庁総務課まちづくり推進係 0137-84-5111
- 瀬棚総合支所 地域町民課環境生活係 0137-87-3311
- 大成総合支所 地域町民課環境生活係 01398-4-5511



自助×共助が
災害に強いま

東日本大震災、阪神淡路大震災といった大きな災害では、
私たちも20年前の教訓を後世に伝え、備えを万全にして

【写真】 自主防災活動の一例（瀬棚区島歌地区・避難経路の確認）